

衣類等の取り扱いについて（感染症予防・事故防止）

保育園は集団生活です。集団で安全に過ごしていくために感染症の予防は、園児、ご家族、そして保育を行う職員の健康を守るために最も大切なことだと考えます。

当園では洗濯の取り扱いを以下のようにいたしますのでご承知おきください。あわせて衣類等による事故の予防、衣類等の破損・汚損の事例についてもお知らせいたします。

記

1. 洗濯物の取り扱い

集団生活は汚れることが大前提です。汚れて困る、高価な物、思い入れのある物などは控えましょう。

- ①衣類、布団、水筒、食事用エプロンなど →園で洗濯・洗浄しません
- ②衣類、布団の汚れもの（失禁・嘔吐・汗・血液） →園で洗濯しません
- ③園の衣類・布団を貸し出した場合 →ご家庭で洗濯してご返却ください。

2. 洗濯・洗浄しない理由

- ①園の持ち物ではないため
- ②誤って職員が破損、汚損することが想定されるため
- ③感染症拡大の防止のため（尿・便・汗・血液・吐物）
（例）ウイルス性肝炎のキャリアの園児や職員がいた場合、集団感染が起こるリスクが高い
火傷、ケガ、手荒れ、皮膚擦過傷（指のさかむけなども）、アトピー性皮膚炎、湿疹、
鼻水・よだれ・涙などの体液や分泌液などから感染する
- ④洗濯洗剤の使用についてトラブルを予防するため
洗剤の成分が肌に合わない、香りが苦手など

3. 衣類等の破損・衣類が引き起こした重大事故の事例

また衣類が引き起こした以下のような悲しい事例があります。かわいいだけで選ばずに、国内の子ども服の安全基準のつとった衣類を着用しましょう。[（経済産業省サイト）](#)

- ①公園で遊んでいてスカートがひっかかり破れた
- ②友達の吐物が大量にかかって布団と衣類を処分した
- ③絵具遊びをして汚れが落ちなくなった
- ④キュロットが滑り台に巻き込まれて脚が反対を向いて骨
- ⑤パーカーの帽子が木に引っかかって首つり死亡
- ⑥パーカーのひもで首がしまり死亡
- ⑦0歳児クラスでは特に、ひらひらのついた服、ワンピースなどは、自分で転倒やひっかかるだけでなく、友達にケガをさせるリスクもあります。
- ⑧スパンコールやボタンのある服、飾りのある髪ゴムなどの誤飲

（※1）故意・過失でないものの弁償はいたしかねます。

（※2）全ての持ち物に記名をお願いします。薄くなりますので時々点検をしてください。